

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.34

“やさしく かしく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和4年12月21日 文責:安生昌弘あんじょう あさひろ

◆ もうすぐ冬休み、会話のチャンス

冬休みは子ども達にとって色々楽しみの多い休みです。社会的行事で家族との交流を多くして欲しいと願い、学校から出される提出義務のある宿題は極力減らしました。ただ、コロナ関連の欠席があった子どもさんには、担任から特別の補習課題等が出されると思いますから、言葉かけをお願いします。また、進んで取り組む自主学習の習慣を付けるチャンスでもあります。

家族と過ごす時間が多くなるということは、親子の会話を増やして心の絆を強くするチャンスでもあります。「言わなくても分かるだろう」は、夫婦関係においてばかりでなく、親子関係においてもNGです。「言葉にしなければ、心は伝わらない」とは、私自身の自戒の言葉でもあります。たくさんの会話を心がけ、心の内を話し合える関係を作れる冬休みにして欲しいと願っています。「宿題やったの?」「うん」(ホントはやってないけどね)とか「みんな持ってるんだよ。買ってよ。」(ホントは3人位だけだね)という会話は避ける事ができるかも知れません。子どもは家庭と学校のそれぞれで自分に都合の良いように話をする事が多いものです。子どもがホントのことを話せる相手に親になるチャンス。それが親子での時間が増える冬休みなのですね。



◆ 校長のコロナ闘病記(大げさ?)

まさかの事態は先週に突然やって来ました。月曜の夜のことです。少し喉に違和感を感じたので万が一を考えて家庭内でもマスクをかけることにしました。熱は36.5℃の平熱でしたし、感染した方との接触も思い当たらないので、通常通り入浴して就寝しました。翌朝、リーバーに入力するため布団の中で熱を測ると37.2℃。コロナ禍3年間で初めてのことです。症状が出てから半日過ぎないと検査できないとのことで午後2時に抗原検査をすると「陽性」でした。経路不明、高い感染力、これが第8波なのだなと改めてコロナの恐ろしさを感じました。



5日分の総合感冒薬と解熱鎮痛剤を貰って帰宅し、県から濃厚接触者になった妻用の抗原検査キットを取り寄せました。期間中に一人2個まで申請できるようです。その日から2階と1階に分かれて、換気扇を回したままにして家庭内での隔離生活を行うことになりました。夜には熱が39℃近くまで上がっていました。

症状は、確かに重くないものの、インフルエンザのように休養すればするほど、薬を飲めば飲むほど、頑張って食べれば食べるほど、順調に良くなっていくという感覚がありませんでした。熱は確かに4日後には下がりましたが、薬を飲みきっても体内にウィルスがいる感覚がずっとありました。「症状は軽い」と聞いていましたが、経験するとイメージが少し違って「入院の必要が無い程度の症状」という感じでした。幸いなことに妻には感染しなかったもので、見て貰えた私は1週間で復帰することができました。妻に感謝です。

冬休み中、多くの方との交流が増えますので、できる対策を継続して、各家庭とも明るい卯年のスタートを迎えて欲しいと願っています。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。